

2025/7/3 第36回基礎体温計測推進研究会定例会報告

2025年7月

基礎体温計測推進研究会事務局

2025年7月3日（木）14時より17時まで、四ツ谷の主婦会館において、第36回の勉強会が行われました（現地参加が難しい方はZoomで参加いただくハイブリット形式）。

まずはじめは、戸川達男会長よりご挨拶。「基礎体温を簡単に測る機器がないのでランズナイトができ、それを改良した機器の開発も進んでいる。また、体温そのものの定義というのはあいまいであまりきちんとしてはいない。小さな研究会ではあるが、これから新しい提案が生まれそうで、期待している。」とのことでした。



【第一部】

■新事務局挨拶 ファンメディケーション株式会社 渡部仁美さん（看護師）

「もっと早く知りたかった」をなくしたい！

医療・健康分野における「もっと早く知りたかった」をなくしたい！ファンメディケーション社はそのためのコンテンツ制作と情報発信者サポートを専門的な技術と経験に基づいて行う会社で、医療・ヘルスケア・SRHR（Sexual and Reproductive Health and Rights：性と生殖に関する健康と権利）・包括的性教育の情報発信をサポート。自分の健康は自分で守る（セルフメディケーション）＋楽しい気持ち(FUN)をモットーに、啓発活動も行っています。今後当研究会事務局として連絡等行いますので、よろしくお願いします。



■企業紹介「パナソニック初の女性の健康に寄り添う新サービスの紹介」

パナソニック くらしアプライアンス社 ビューティー・パーソナルケア事業部 ビジネスデザイン部 事業開発課 課長 図師和彦氏

心と身体の健やかさを応援、①計測→②分析・予測→③アドバイス→サポートにつなげ、女性の健康に寄り添う新サービス。温度計測に関しては日本大学工学部の村山嘉延教授と共同で実証実験を行い、産婦人科医池田裕美枝先生、睡眠の白川修一郎先生の監修のもと、サービスを提供します。



新サービスの説明する図師和彦さん



連携アプリについて説明する加藤未帆さん

■ 企業紹介 「昨日できたことは今日もできる～いつも通りからの逸脱を報知で抑制するISE保有技術work transformで臨むレジリエンス工学に基づく課題解決～」 株式会社情報システムエンジニアリング 田中一行氏

基礎体温の計測と分析を軸とした女性の健康を考察する上で、ISEが取り組んでいるレジリエンス工学に基づく社会課題の解決案を紹介いただきました。ちょっと難しかったのですが、Safety-1「なぜ失敗は繰り返されるのか?」、Safety-2「なぜ成功するのか?」という概念から、昨日できたことを今日もできるようにする、自分自身の機能を調節できるのは本質的なことというお話でした。

また、長年陳先生と共同研究してきた「入浴中の生体信号（心電信号）の長期モニタリングによる健康管理」についても発表いただきました。



■ 名誉会長あいさつ 堀口貞夫先生

松本清一先生はたくさんの論文発表をしているが、ホルモンの変化によって基礎体温が変動するということ、なぜそこに気づいたのか？は興味深い。受診すれば血液検査でわかるのだが、自分で体温を測ることでホルモンバランスがわかる。男性でも計測する意味があり、ろっ骨を骨折した際に4日程高温となった。ただ、毎日続けるその計測は大変で、計測を継続しやすい衣服内温度計ができたので、だれもが継続しやすくなった。産婦人科の立場では、お産というすごい領域の技術も進化してほしいと思う。



【第二部】

■ パネルディスカッション「基礎体温計測推進研究会の温故知新、新たな目標」

パネラー：北沢 真澄(キューオーエル株式会社代表取締役)

中村 和代(性と健康を考える女性専門家の会理事)

村山嘉延(日本大学工学部電気電子工学科教授)

ファシリテーター：江尻綾美(福島大学地域未来デザインセンター特任准教授)

パネルディスカッションでは、基礎体温計測推進研究会のこれまでの振り返り、今後に向けた活動のあり方を探りました。

前半では、基礎体温計測推進研究会発足当時の北沢さん、中村さんの想いと、これまでの研究会の活動を振り返りました。

基礎体温計測推進研究会は、松本清一先生や堀口雅子先生の出会いからはじまり、女性の健康に関する課題意識を共有する多様な専門家たちのつながりにより発展してまいりました。中でも、松本清一先生が大切にされた「やさしさ」の精神が深く根付いています。学術的な厳密さの中に人々に寄り添う温かさがあったこの精神は、脈々と受け継がれ、研究会独自の文化を育んできました。また、活動が活発になるにつれ、その知見を広く社会に届けるため、初の書籍発行が自然な流れで実現しました。

後半では、村山先生を中心に、当研究会の今後の活動にむけて「ワクワク感」を軸にした話が進みました。

企業会員様からは、研究会のネットワークを活用した 共創・協働 による女性の健康支援に強い期待が寄せられておりました。

多様な専門性との連携や実用的な情報提供、新サービスの共同開発、社会啓発への貢献等、当研究会への幅広い要望もいただいていることを確認しました。

当研究会は、2026年に20周年目の節目を迎えます。学術的なエビデンス構築を基盤として、これまでの想いを継承し、今後も女性が女性が心身ともに健やかに生きられる社会の実現に貢献してまいります。

【懇親会の様子】



産婦人科医久保田史郎先生は戸川先生と久々の再会



陳先生と北沢、20年前はお互い若かったのですが・・・



和やかムードの中でも熱く語る先生方と企業、参加者のみなさん